



CORNER ITALIANO | 公式資料

# ダヴィデ事例

---

完全記録、離脱、再開

2050 年テストの完全な適用例

日本語版アーカイブ - 2026 年 7 月 - A4 版

<https://www.corneritaliano.com/ja/2050/resources/>

**読み方** この記録は、根拠の状態と組織としての決定を区別します。七つの問いをすべて文書化しても、具体的な文脈で残存便益が監督、依存、離脱を支えないなら、能力のある製品にも『委任しない』という決定を下せます。

## 事例の経過

| 時点          | 根拠と決定                                                                       |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 試験運用前       | 離脱テストが失敗します。記録は読めても、設定とアクセス権限を再構成できません。試験運用は開始しません。                         |
| 二回目の離脱テスト   | チームは別環境で案件ファイルを再開し、アクセス権限を再設定し、主要サービスなしで作業を継続します。                           |
| 開始          | 決定は『範囲を限定して試す』。90日間、まずシャドーモード、その後は『提案』モードだけを用い、自律実行は認めません。                  |
| 試験運用中       | システムは有用な先例を見つけます。一方、現実に関わり得る誤りとして、合意済みの制限を落としたまま条項を再利用します。契約は送信されません。       |
| 2050年10月15日 | 監督、研修、学習、離脱のコストを差し引くと、純便益は小さく不規則なままです。決定は『委任しない』。                           |
| 2050年10月16日 | 記録には『しない』コストも残します。滞留する提案、請求できない時間、提供事業者への残債、失った顧客です。                        |
| 終了          | 最終エクスポート、アクセス取消し、提供事業者の支援なしで無作為に選んだ案件ファイルを再開します。                            |
| 2051年4月15日  | より狭い提案について再開します。終了案件だけを用いた先例検索、シャドーモード、外部への効果なし、再び『委任しない』と答えられる状態を恒久的に保ちます。 |

## 2050年10月15日の記録

| 項目          | 2050年10月15日の記録                                                                                                        |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| システムと決定     | 契約業務向けの運用ツイン。90日間の試験運用後に導入の可否を判断します。まずシャドーモードで使い、根拠が保たれる場合に限り『提案』モードへ進みます。                                            |
| 文脈と影響を受ける人々 | ダヴィデの小企業、契約責任者、研修中の若手同僚、営業責任者、提案によって拘束される顧客と相手方。                                                                      |
| 目的 - 十分     | 未検出の例外、遅い是正、理解されない約束を増やさず、滞留作業と準備時間を減らします。同じ必要性に対し、組織上の代替策も比較します。                                                     |
| 委任範囲 - 十分   | 運用ツインは先例を比較し、逸脱を示し、代替案を作成します。『決定』『実行』は使わず、送信も署名もしません。日程、価格、人員、契約上の約束は対象外です。監督者一人が担当する未完了案件は最大12件とし、実負荷で再審査するしきい値とします。 |

## 2050 年 10 月 15 日の記録 - 続き

| 項目                      | 2050 年 10 月 15 日の記録                                                                                                                 |
|-------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 根拠 - 十分                 | 高コストの例外を含む終了案件、シャドーモード、その後の『提案』モード、模擬インシデント、実負荷を用います。システムは多数の有用な先例を見つける一方、決定的な点で現実に関わり得る誤りを一度犯します。便益は実在しますが、小さく不規則です。               |
| 配分 - 十分                 | 粗い時間節約と、専門職の時間、研修、学習、顧客の待ち時間、離脱作業を分けて記録します。若手同僚には案件ファイルを再構成するための保護された時間を与えます。                                                       |
| 損害 - 十分                 | 現実に関わり得る失敗は、条項が制限を落とすか、情報源と例外が理解される前にリスクを移転することです。署名前の確認が介入可能時間を生みますが、損害が軽いという意味ではありません。                                            |
| 救済 - 試験運用中は十分           | 外部への効果は自動化しません。契約責任者は再開、変更、阻止、停止ができ、介入は記録されます。営業責任者の異論は保存しますが、相手方の救済に代わるものではありません。                                                  |
| 離脱 - 当初は阻止条件、その後は十分     | 最初のエクスポートでは設定とアクセス権限を再構成できないため、試験運用を開始しません。二回目には別環境で案件ファイルを再開し、主要サービスなしで継続します。終了時には記録と設定をエクスポートし、提供事業者の支援なしで無作為の案件を再開し、アクセスを取り消します。 |
| 暫定決定                    | 『範囲を限定して試す』。90 日間、まずシャドーモード、その後は『提案』モード。自律実行は禁止し、監督、統制、学習のコストを便益から差し引きます。                                                           |
| モニタリング                  | チームは所要時間の短縮、例外、介入、専門職の時間、情報源の再構成を記録します。システムの技術的能力は維持されますが、監督を実際に行くと、この業務と処理量では純便益が成り立ちません。                                          |
| 最終決定 - 2050 年 10 月 15 日 | 『委任しない』。『提案』モードさえ更新せず、離脱を開始し、代替策を維持します。ダヴィデは署名し、実在する便益を手放す決定を引き受けます。                                                                |
| 維持する代替策                 | 承認済み条項集、早期に特定する例外、専門家の早期参加、案件再構成のための保護された時間。                                                                                        |
| 『しない』コスト                | 滞留する提案、請求できない時間、提供事業者への残債、利益率の低下、失った顧客。会社には読み取れる案件ファイルと、より広く配分された能力が残ります。                                                           |
| 責任者と再審査                 | ダヴィデ。終了記録は 2050 年 10 月 16 日付。再審査予定日は 2051 年 4 月 15 日。                                                                               |

## 再開：2051 年 4 月 15 日

6 か月後、最初の『委任しない』を消さずに再審査します。提案は新しく、より狭いものです。試験と購入は分離したままで、再び『委任しない』と答えられる具体的な可能性を保ちます。

| 項目      | 2051 年 4 月 15 日の再開                                          |
|---------|-------------------------------------------------------------|
| 新しい提案   | 商業提案を生成せず、より低いコストで、進行中案件へアクセスせずに先例を検索します。                   |
| 試験範囲    | 終了案件を用いた新たなシャドーモード試験。購入も外部への効果も認可しません。                      |
| 根拠とコスト  | 待ち時間、遅い是正、利益率、専門職の時間、監督、研修、学習を同じ勘定に記録し続けます。                 |
| しきい値と停止 | 成功基準、責任者、停止権限を開始前に定めます。システムを購入せずに試験を終了できます。                 |
| 決定      | 比較を再開しても、最初の『委任しない』は取り消されません。終了時にも『委任しない』と具体的に答えられる状態を保ちます。 |

## ほかの文脈へ移せる基準

**事例の意味** 『委任しない』は、製品を役に立たないと宣言することではありません。この工程、この時点で、残存便益が監督、依存、離脱を支えず、より良い組織上の代替策があるため、その権限を委ねないという意味です。根拠とコストを持ち、再開可能な『否』です。

### 自分の文脈へ移すための問い

| 問い                                | 自分の文脈で探す根拠 |
|-----------------------------------|------------|
| 成功基準は必要性を測っていますか。それとも生成量だけですか？    |            |
| どの権限を『支援』または『提案』に留めるべきですか？        |            |
| 監督、研修、待ち時間、離脱のコストを誰が負担しますか？       |            |
| 洗練され説得力があるように見えて、決定的な点で誤る失敗は何ですか？ |            |
| 離脱テストで設定とアクセス権限も再構成できますか？         |            |
| 同じ必要性へ応える組織上の代替策は何ですか？            |            |
| 最初の『否』を消さずに再開する理由となる変化は何ですか？      |            |